

2 学習評価の基本的な枠組みと改善の方向性

学習評価は、学校における教育活動に関し、児童の学習状況を評価するものです。教師が児童の学習状況を的確に捉え、指導の改善を図るとともに、児童が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるよう、学習評価の在り方を改善することが重要です。

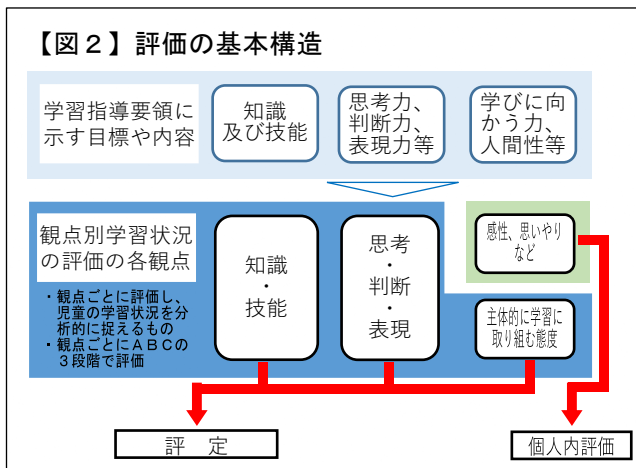


解説動画

◆ 学習評価の基本的な枠組み

各教科の評価については、学習状況を分析的に捉える「観点別学習状況の評価」と、これらを総括的に捉える「評定」の両方について、学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施します。(目標準拠評価)

図2のように、感性や思いやりなど観点別学習状況の評価や評定には示しきれない児童一人一人のよい点や可能性、進歩の状況については、「個人内評価」として実施します。



※目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なります。

◆ 観点別学習状況の評価

各教科等の目標や内容が「資質・能力の三つの柱」に基づいて整理されたことを踏まえ、観点別学習状況の評価の観点が3観点到整理されました。

各観点の評価に当たっては、各教科等の特質を踏まえて適切に評価方法等を工夫することにより、学習評価の結果が児童の学習や教師による指導の改善につながるものとするのが重要です。

◆ 評定について

評定は、各教科の観点別学習状況の評価を総括した数値を示すものです。評定は、児童がどの教科の学習に望ましい学習状況が認められ、どの教科の学習に課題が認められるのかを明らかにすることにより、教育課程全体を見渡した学習状況の把握と指導や学習の改善に生かすことを可能とするものです。

学習評価の結果は、カリキュラム・マネジメントの実施状況の評価に当たり、客観的な諸調査の結果とともに、重要な資料の一つとなります。

各学校においては、観点別学習状況の評価の観点ごとの総括及び評定への総括の考え方や方法について、教師間で共通理解を図り、児童及び保護者に十分説明し理解を得ることが大切です。

◆ 「知識・技能」の評価について

「知識・技能」の評価は、各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについて評価するものです。

このような考え方は、従前の評価の観点である「知識・理解」、「技能」においても重視してきたところですが、今回の学習指導要領に示された知識及び技能に関わる目標や内容の規定を踏まえ、各教科等の特質に応じた評価方法の工夫改善を進めることが重要です。

具体的な評価方法としては、ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図るとともに、例えば、児童が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくことが考えられます。

【事例1】理科 第4学年 単元名「電流の働き」

結果 直列つなぎはかん電池1こを外すとあまりはつきなかつた。
またへい列つなぎはかん電池1こを外してもあまりはつきなかつた。

直列つなぎ

豆電球の明かりがつかなくなったことを「0A」として記録している

「直列つなぎ」「並列つなぎ」共に、回路図を用いて記録している

乾電池の数と豆電球の明るさを関係付けて記録している

検流計の数値を正しく読み取り記録している

電流の流れや回路を整理して記録している

（第7時：A児の結果の記録）

児童が書いた文章から、教師は吹き出しの視点で見取り、「十分満足できる」状況と評価した。

【『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料】小学校理科から】

◆ 「思考・判断・表現」の評価について

「思考・判断・表現」の評価は、各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決するなどのために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価するものです。

このような考え方は、従前の「思考・判断・表現」の観点においても重視してきたところですが、今回の学習指導要領に示された、各教科等における思考力、判断力、表現力等に関わる目標や内容の規定を踏まえ、各教科等の特質に応じた評価方法の工夫改善を進めることが重要です。

具体的な評価方法としては、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたりと、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられます。

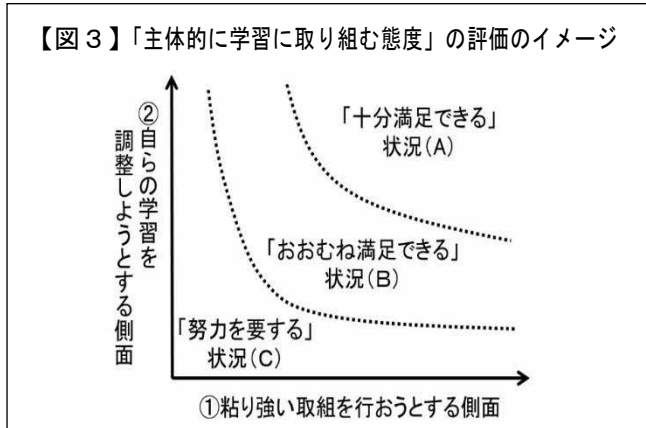
【事例2】算数科 第6学年 単元名「分数のわり算」

下の記述は、計算の仕方を複数の方法で考えた上で、式に対して、どのように考えたか等の説明を加えている学習状況が見られ、「十分満足できる」状況と判断した。

【『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料】小学校算数から】

◆ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかという意思的な側面を評価するものです。



本観点に基づく評価としては、【図3】のとおり、「主体的に学習に取り組む態度」に係る各教科等の評価の観点の趣旨に照らし、①「知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面」と、②「①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面」という二つの側面を評価することが求められます。

具体的な評価の方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童による自己評価や相互評価等の状況を、教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられます。その際、各教科等の特質に応じて、児童の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要があります。したがって、例えば、ノートにおける特定の記述などを取り出して、他の観点から切り離して「主体的に学習に取り組む態度」として評価することは適切ではないことに留意する必要があります。

【事例3】音楽科 第3学年 題材名「地域の祭り囃子に親しもう」

音楽ワークシート

月日	学習のあて	学習に対するふり返り	活動の振り返り
(第1時)	まつりばやしについて何だろう？	祭りばやしのことでもっと知りたいと思ったことや、やってみようと思ったことを書きましょう。しずおかのみつりばやしは、どういうリズムやがっさきを使っているのかわかりたい。かねやをやってみたい。	東西囃子の違いをまかして、比較するために知りたいことを書いている。
(第2時)	静岡のみつりばやしの面白さのみみつを見つけよう。	①静岡のみつりばやしは、どんな音楽でしたか？ 4月のおまつりでみんなが楽しくなるようにつかわれる音楽。どんどんにぎやかになる。②体験をしたり、話をきいたりして、わかったことを書きましょう。天ツクツツ チレツクツ のリズムを口唱歌をおぼえて打つ。しめだいこを打つときは、おさえずはじくように打つとい音がでる。ツクツの所で太太こが入っている。	保存会の人の話をきいたことを結びつけながら考えている。
(第3時)	静岡のみつりばやしのよさをしようかいしよう。	静岡のみつりばやしのよさは、どんどん楽しくなってきたりどんどん太太こです。どうしてかというしめだいのリズムがくりかえすだけでなく、ちがうリズムも入ってきて、どんどんはやくなるからです。そして、4つのがっさきがかきかたくなっていきます。②じゆぎょうで、友達のかねやをきいてなるほどと思ったことや、さいしよにまつりばやしをきいた時と感じがかわったなと思うことがあれば、書きましょう。皆さんの音の強さもわかっていくという見をきいて、そこにも楽しさかきかたまっていきます。自分分かった。ほぞん会のみなさんは、まつりに来た人が楽しい気分になってくれるようにえんそうしてくれているんだと感じた。	保存会の人の打つ姿をよく観察して体験している。

教師は、上記に示したワークシートの記述内容、表情や行動観察、児童の発言等を継続的に把握し、「十分満足できる」状況と判断した。

【『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料】小学校音楽から】

「主体的に学習に取り組む態度」の評価に当たっては、児童が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるようにしていくことが重要です。